

【高等学校用】

令和7年度学校評価計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている C: やや不十分である
B: おおむね達成できている D: 不十分である

学校名	佐賀県立鳥栖高等学校
1 前年度 評価結果の概要 （簡潔に）	アンケートでは生徒、保護者ともに90%以上が「学校生活に満足している」。一方、「家庭学習時間が確保できていない」生徒は50%未満であり、自発的な学びを促す仕掛けづくりが急務である。教科横断的指導やサポートプログラムの活用など、探究活動を体系的に学ぶ体制を整備し、生徒が主体的に考え、行動する機会を多く設ける必要がある。

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	○東部地区の県立中高一貫校として、これからの時代を見据えた6年間のカリキュラムやキャリア教育について研究を継続すること。 ○県境にある普通進学校として魅力を磨くことで、県内外から志の高い生徒を呼び込み、地域・日本・世界の未来を切り拓くリーダーを育成すること。
--	---

3 スクール・ポリシー			4 本年度の重点目標	
アドミッション・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	
①学習意欲が旺盛で、不断の努力ができる生徒を求めます。 ②学校行事及び生徒会活動、部活動やボランティア活動に積極的に取り組む生徒を求めます。 ③主体性ととも、他者と協働する姿勢をもって、ものごとに取り組もうとする生徒を求めます。		①基礎・基本を重視するとともに、質の高い授業や深い学びのできる活動を通して、確かな学力を育成します。 ②探究活動を通して、知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力が身につくような充実した学びを実現します。 ③生徒主体の学校行事及び生徒会活動、部活動を通して、リーダーの資質・能力を育成します。 ④地域と共に歩み、地域から信頼される学校づくりを目指します。	①国際社会の平和と発展、環境保全に進んで貢献する人材を育成します。 ②歴史と伝統を重んじる態度と、未来を切り拓く力を備えた人材を育成します。 ③未知の課題に挑む知性と感性を兼ね備えた実践的行動力のある人材を育成します。 ④多様な価値観や豊かな想像力を備え、柔軟かつ斬新な発想で新世	①希望進路を叶える確かな学力の育成 ②心身の健康と豊かな人間性の育成 ③自ら進んで社会に貢献できる素養の育成 ④学校の魅力づくりの推進

5 重点取組内容・成果指標			中間評価	最終評価						
(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○家庭学習時間の確保と定着のための学年・分掌間で連携した取組	○低学年時に家庭での学習習慣を確立し、各学年での学習時間目標(学年プラス1時間)を達成した生徒の割合を70%以上にする。	・授業での初期指導を徹底し、学習の習慣化に努める。 ・年次別、各学年で学習時間調査や生活アンケート等を実施し、情報を共有して対応策を講じる。 ・担任と生徒の二者面談を積極的に行い、進路相談とあわせて生活習慣改善や学習意欲向上等の助言を行う。	・	・	・	・	・	教務部 進路指導部 各学年	
	○授業の充実、改善に向けた効果的な取組	○学力向上のための効果的な指導のための授業改善に取り組み、自分の学力や技能が向上していると思う生徒の割合を90%以上にする。 ○各教科で研究授業を行い、教科分析会を実施する。	・常時すべての授業で相互見学可能とする。 ・年2回以上の校内授業見学期間を設定する。 ・年2回の授業評価アンケートの結果をもとに、教科会議で分析し、授業の工夫改善につなげる。 ・可能な範囲で先進校への授業視察の機会を設け、情報を共有してよりよい授業づくりに活かしていく。また、予備校の教員向け講座も活用し、授業力向上を図る。	・	・	・	・	・	教務部 進路指導部	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○校内または校外の人権・同和教育講演会に参加した教職員の割合を90%以上にする。 ○SNSや個人情報等に関する講演等を通して、情報モラル教育の徹底を図る。	・人権・同和教育講演会、及び各クラスでの人権学習・進路保障HR等を実施し、正しい知識と公正な判断で行動できる態度の育成につなげる。 ・月に1回は注意喚起を行い、生徒が情報の取扱やトラブル未然防止について考える機会とする。	・	・	・	・	・	教務部(道徳教育推進担当、人権・同和教育担当) 情報広報部	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応など)について組織的対応ができていると回答した教職員の割合を90%以上にする。	・年間2回の生徒保護者向けのアンケートといじめ対策委員会を実施する。 ・担任・学年・生徒指導と連携をとり、学校生活全般においていじめ、体罰防止に取り組む。	・	・	・	・	・	生徒指導部 各学年	
	○書物に親しみ、自己啓発を促す読書指導	○生徒1人当たりの年間貸し出し冊数コロナ禍時の5.0冊を目指す。 ○図書館の利用を促し、「図書館を学期に1回以上利用している」と回答する生徒の割合を50%以上を目指す。	・長期休み期間は貸し出し冊数を増やす。 ・新刊内を校内掲示する。(学期1回) ・図書部などよりを発行する。(毎月1回) ・県立図書館や市立図書館と連携して授業の資料をそろえる。(年1回以上)	・	・	・	・	・	図書部 各学年	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に良い食事をしている」生徒90%以上 ○毎朝朝食をとる生徒の割合を80%以上にする。	・食に関する意識調査を実施する。 ・家庭科の授業などをとおして、食の大切さを育む。 ・保健室来室生徒に、個々の状況に応じた指導を行う。	・	・	・	・	・	保健相談部 各学年	
	○安全に関する資質・能力の育成	○生徒の交通事故件数を前年比マイナスにする。 ○集会や各連絡を通して、安全に関する情報を共有し、周知徹底する。	・通学路危険マップを作成し全生徒に配布するとともに、生徒支援室・警察署などからの注意喚起の資料をクラス提示することにより、交通事故に巻き込まれない意識を高める。 ・年2回の自転車点検、年1回の交通安全教室のほか、生徒会による呼びかけ、標語募集・看板設置なども随時実施する。	・	・	・	・	・	生徒指導部 各学年	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日、部活動休業日、学校閉庁日等を設定し、時間外勤務時間の縮減を図り、教育活動との両立を図る。 ・休憩を取得しやすい職場の雰囲気を作る。 ・時間外勤務時間縮減に向けて、教職員からの声も聴きながら改善を進めていく。	・	・	・	・	・	管理職	
●特別支援教育の充実	○生徒にとって学びやすい学校づくりの推進	○スクールカウンセラーを含め職員間で情報共有の充実を図る。	・年度当初に各学年ごとに生徒理解会議を開催する。 ・シェアリング・シートを作成し、毎月1回の教育相談会議を開催する。	・	・	・	・	・	保健相談部 各学年	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合90%以上、教職員の割合90%以上 ★グローバルな視野・考え方を持った人材を育成を目指し、キャリア形成に資する探究活動プログラムの充実を図る。	・既存の学校パンフレット、学校説明会、ネット配信による学校PRについて、本校独自の魅力という視点から内容を随時見直し、改善する。 ・さまざまな行事・活動を一層充実させるために細かい工夫・改善を行う。 ・個々の興味・関心や学力、目的などに応じて自己に最適なプログラムが選択できるよう、複数のプログラムを設定する。 ・交通の要塞であり、多くの研究施設等が集積している地の利を活かし、企業、大学等と連携した探究活動プログラムを設定する。	・	・	・	・	・	教務部 情報広報部 進路指導部 生徒会 各学年	
○進路指導の充実	◎生徒の進路意識を高め、進路希望を実現するための適切な指導	○面談での助言が効果的だったと答えた生徒の割合を90%以上にする。 ○第一志望大学合格者の割合を増やす。 ○機関大5名、九州大20名、国公立大120名以上の合格を目指す。 ★キャリア教育の一環として、OBや本校関係者等による講演会を実施する。	・進路検討会や模試分析により、客観的に生徒の学力特性を把握し、面談等の的確な進路指導につなげる。 ・入試問題研究の充実と各種研究会への参加を通して、教科指導及び進路指導の指導力向上を図る。 ・随園大学志望生徒への学習指導について、各教科での工夫改善と全体での情報共有に努める。 ・新教育課程に伴う大学入試変更点について、教職員の情報共有とともに、随時、生徒保護者への情報提供を行う。 ・講演会等を実施し、生徒の進路意識を涵養する。	・	・	・	・	・	進路指導部 各学年	
○学校に対する生徒・保護者の満足度	○学業だけでなく、部活動やその他の活動に自ら積極的に取り組む姿勢を重んじる学校文化の中で、生徒が生き生きと学校生活を送ることができる教育活動の実践	○アンケート(生徒は、学校生活に十分満足している)で肯定的な回答をした割合を生徒・保護者ともに80%以上にする。 ★県内外へ向け本校の魅力を積極的に発信する。	・部活動の活性化を図り、ボランティア活動、部活動以外の文化的活動、研修会など、様々な分野の活動の場を積極的に紹介していく。 ・生徒の主体的な活動をできるだけサポートするよう努める。 ・Instagramの活用などによるタイムリーな情報発信に努める。 ・可能な範囲で中学校、学習塾、市町教育委員会等への訪問説明を行い、本校の魅力を伝える。	・	・	・	・	・	生徒会 情報広報部	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり										
6 総合評価・次年度への展望 (簡潔に)										